

共有デジタル地図共同整備事業

検査要領 Ver3.1

(共有デジタル地図編)

平成25年6月

共有デジタル地図共同整備業務共同企業体

目 次

1. 総則	1
1. 1. 目的	1
1. 2. 適用範囲	1
1. 3. 三重県共有デジタル地図での検査方法	1
2. 検査手法	2
2. 1. 検査一覧	2
2. 2. 検査の流れ	4
2. 3. 工程別検査内容	5
2. 3. 1. 予察	5
2. 3. 2. 現地調査	6
2. 3. 3. 数値図化	7
2. 3. 4. 数値編集	9
2. 3. 5. 相互点検	11
2. 3. 6. DMデータファイル	12
2. 3. 7. GIS面データ作成	14
3. 標準報告様式	15
3. 1. 点検記録表	15
3. 1. 1. 予察点検記録表	15
3. 1. 2. DMデータファイル説明書点検表	15
3. 1. 3. DMデータ仕様点検記録表	16

1. 総則

1. 1. 目的

本要領では、「三重県共有デジタル地図」を法定図書等で有効利用できる精度を満たすための検査方法等を定める。

1. 2. 適用範囲

本要領は、「三重県共有デジタル地図」を更新する場合において適用される。

1. 3. 三重県共有デジタル地図での検査方法

三重県共有デジタル地図の検査では、公共測量作業規程に則った検査を実施する。公共測量作業規程では、以下の2種類の検査を実施する。

- ① データ作成工程毎の精度管理
- ② 製品仕様書に基づく成果品の品質検査

なお、最終的に品質管理が適正に行われたか否かについての判定は第三者機関により行う。公共測量成果としての適性について、検定に関する技術を有する第三者機関での検定を受けるものとする。

2. 検査手法

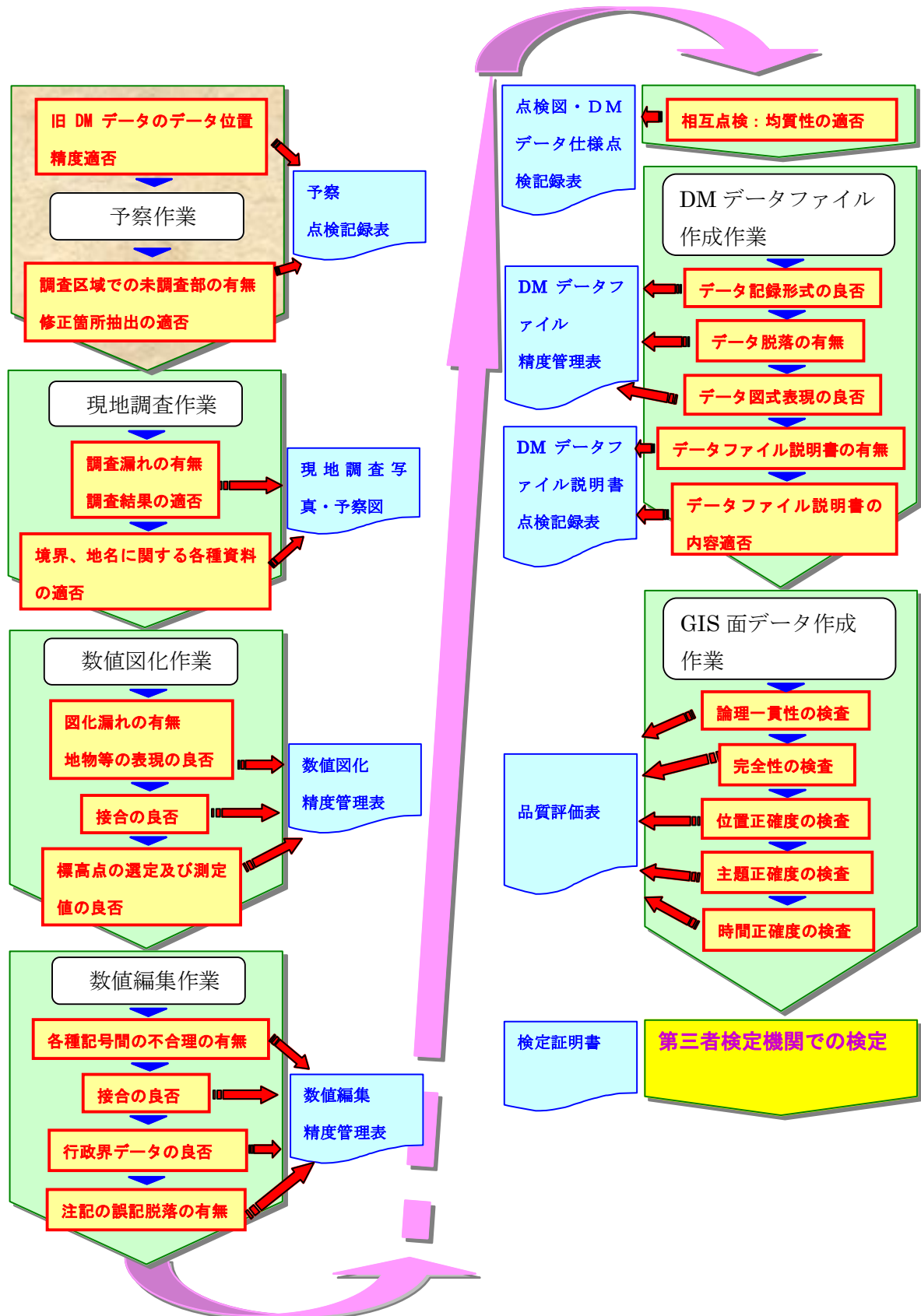
2. 1. 検査一覧

検査の内容を一覧に示す。成果としては、公共測量作業規程に準拠した「精度管理表」及び「品質評価表」、及びその他「点検記録表」となる。

作業項目	検査目的	検査方法	点検成果	検査基準
予察	旧DMデータのデータ位置精度適否	図化測定座標との座標値比較（サンプリング）	予察点検記録表	公共測量作業規程
	調査区域での未調査部の有無	旧図と航空写真上での目視点検	予察点検記録表	
	修正箇所抽出の適否	旧図と航空写真上での目視点検	予察点検記録表	
現地調査	調査漏れの有無	航空写真上での目視点検	現地調査写真・予察図	公共測量作業規程
	調査結果の適否	航空写真上での目視点検		
	境界、地名等に関する各種資料の適否	航空写真上での目視点検		
数値図化	図化漏れの有無	データの目視点検	精度管理表	公共測量作業規程
	地物等の表現の良否	データの目視点検	精度管理表	
	接合の良否	データの目視点検	精度管理表	
	標高点の選定及び測定値の良否	データの目視点検	精度管理表	
数値編集	各種記号間の不合理の有無	データの目視点検	精度管理表	公共測量作業規程
	接合の良否	論理点検	精度管理表	
	行政界データの良否	データの目視点検	精度管理表	
	注記の誤記脱落の有無	データの目視点検	精度管理表	
相互点検	均質性の良否 (JV内各社間での仕様の相違の可否)	出力図及びデータの目視点検	点検図及びDMデータ仕様点検記録表	三重県共有デジタル地図検査要領等

D M データファイル作成	データ記録形式の良否	論理点検	精度管理表	公 共 測 量 作 業 規 程
	データ脱落の有無	データ展開による目視点検	精度管理表	
	データ図式表現の良否	データ展開による目視点検	精度管理表	
	データファイル説明書の有無	成果物の確認	データファイル説明書点検記録表	
	データファイル説明書の内容適否	説明書データの目視点検	データファイル説明書点検記録表	
G I S 面データ作成	完全性（もれ過剰の適否）	現地調査資料等との目視点検	品質評価表	公 共 測 量 作 業 規 程
	論理一貫性（データ形式等の適否）	検査プログラムによる論理点検	品質評価表	
	位置正確度（位置精度の適否）	現地再測若しくは再図化による座標較差点検	品質評価表	
	時間正確度（時間精度の適否）	-	品質評価表	
	主題正確度（属性情報の適否）	現地調査資料等との目視点検	品質評価表	

2. 2. 検査の流れ



2. 3. 工程別検査内容

2. 3. 1. 予察

①旧DMデータのデータ位置精度適否

検査目的
旧DMデータの位置精度が修正に適しているか点検する。
検査方法
位置精度が明瞭に判読できる地物の1点を選定し、レベル1000精度で図化した座標値と旧DMデータの座標（日本測地系座標であった場合は、世界測地系変換後の座標）を比較する。
点検数量
1市町村に5図郭を選定する。選定する5図郭は自治体中心部および北東・北西・南東・南西の隅付近に存在する図郭（出来るだけ満測図を選定する）とする。1市町村が5図郭未満で構成される場合は、全ての図郭を選定するものとする。 選定された図郭の4隅及び中央付近の計5地点で、位置精度が明瞭に測定できる地物上の点を選定する。
点検成果
点検の結果は「旧DMデータ点検記録表」に従いまとめる。 検査員は、前々項の「①旧DMデータのデータ内容適否」及び当点検による精度の適否により総合的に判断する。

②調査区域での未調査部の有無・修正箇所抽出の適否

検査目的
調査区域において、未調査部分が存在していないか、修正箇所抽出が誤っていないかを点検する。
検査方法
検査員が、旧DMデータ・航空写真データ・予察結果データを机上にて目視により比較を行う。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果で誤りがあった場合は、「予察点検記録表」に従いまとめる。誤りについては予察データを適正に修正する。

2. 3. 2. 現地調査

①調査漏れの有無・調査結果の適否

検査目的
現地調査において、未調査部分が存在していないか、調査漏れが発生していないかを点検する。
検査方法
新規地形図作成の場合は、検査員が航空写真上で現地調査漏れが無いかを机上にて目視確認する。 地形図修正の場合は、検査員が予察範囲図と航空写真上の現地調査箇所が一致しているかを机上にて目視確認する。 同時に、検査員が航空写真と現地調査結果を比較して、現地調査表現が不適と認められる部分（明らかな道路幅員誤記入や各種記号の誤記等）について、机上にて目視確認を行い、作業者に再度確認を行う。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
点検により発見された漏れ・誤りについては、現地調査用航空写真上に再整理を行い、再度現地調査を行う。

②境界、地名等に関する各種資料の適否

検査目的
境界、地名等についての各種資料が存在している場合、現地調査によって確認された状況との比較確認を再度行う。
検査方法
検査員が、各種資料と現地調査結果について整合性を机上にて目視確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
点検により発見された漏れ・誤りについては、現地調査用航空写真上に再整理を行い、再度現地調査を行う。

2. 3. 3. 数値図化

①図化漏れの有無・地物等の表現の良否

検査目的
数値図化作業において、未図化部分が存在していないか、地物表現が適当か否かを点検する。
検査方法
<p>検査員が航空写真と図化素図データを見比べ、図化漏れが無いかをディスプレイ上にて目視確認する。</p> <p>同時に、検査員が、現地調査結果の記載されている航空写真と図化素図データを比較して、地物の表現方法が不適と認められる部分（明らかな誤記等）について、ディスプレイ上にて目視確認を行い、作業者に再度修正を指示する。</p>
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値図化作業精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加図化・修正図化を実施する。

②接合の良否

検査目的
数値図化作業において、モデル間の接合、図郭間の接合が適正か否かを点検する。
検査方法
<p>検査員が図化素図データをディスプレイ上で目視点検し、図上 0.7mm 以内の接合誤差であることを確認する。</p> <p>地物の接合状態が不適と認められる部分については、作業者に再度修正を指示する。</p>
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値図化作業精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加図化・修正図化を実施する。

③標高点の選定及び測定値の良否

検査目的
標高点が適正に配点されているか、及び測定値の良否を点検する。
検査方法
<p>検査員が図化素図データをディスプレイ上で目視点検し、図化標高点が適正に配置されていることを確認する。</p> <p>また、等高線データと図化標高点の高さの関係を検証し、測定値が適正か否かを点検する。</p>
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値図化作業精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加図化・修正図化を実施する。

2. 3. 4. 数値編集

①各種記号間の不合理の有無

検査目的
図式表現が適正に行われているか点検する。
検査方法
検査員が数値編集済データをディスプレイ上で目視点検し、図式表現が適正に行われていることを確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値編集精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加数値編集を実施する。

②接合の良否

検査目的
数値編集作業において、モデル間の接合、図郭間の接合が完全に実施されているか否かを点検する。
検査方法
検査員が数値編集済データをディスプレイ上で目視点検し、モデル間接合および図郭接合が完全に実施されていることを確認する。 地物の接合状態が不適と認められる部分については、作業者に再度修正を指示する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値図化作業精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された不接合については、再数値編集を実施する。

③行政界データの良否

検査目的
行政界が適正に記入されているか点検する。
検査方法
検査員が数値編集済データをディスプレイ上で目視点検し、行政界原典資料と比較して適性に入力されているかを確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値編集精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加数値編集を実施する。

④注記の誤記脱落の有無

検査目的
注記が適正に記入されているか点検する。
検査方法
検査員が数値編集済データをディスプレイ上で目視点検し、注記原典資料（現地調査写真等）と比較して適性に入力されているかを確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「数値編集精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、追加数値編集を実施する。

2. 3. 5. 相互点検

①均質性の適否

検査目的
<p>J V 内各社間でのデータ均質性を点検する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現地調査が概ね良好に実施されているか。 ② 現地調査どおりに図化編集が実施されているか。 ③ 図式表現が適切か。 ④ データ構造が適切か。
検査方法
<p>以下の工程で検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図化作業実施企業各社は、修正図化市町を任意に 1 市町ずつ選択する。 ②選択した修正図化市町で、各々 1 面を任意に抽出し、出力図及び DM データを作成する。また、対象図面の現地調査写真をスキャニングしてデータ化する。 ③図面及びデータ合計 1 面分についての出力図・DM データ・現調写真スキャニングデータ）を他社にそれぞれ提供する。 ④チェック 1：現地調査写真データを出図し、他社より提供された出力図面に、従来のセンター検査の方式で、赤ペン添削を行う。 ⑤チェック 2：「DMデータ仕様点検記録表」に従って、DM データが適正かを CAD システム等を使用して確認する。（点検該当データが無い場合は、別途存在する図面の提供を受け、その部分のみの確認を行う。）点検結果については「DMデータ仕様点検記録表」に適否を記載し、否の場合は、原因・理由等を記載する。 ⑥チェック結果を相互に提出し、内容について確認を行う。問題が発生した場合は、適宜 JV 会議にて協議を行う。
点検数量
<p>1 社につき、修正図化 1 面のサンプリング検査を行う。</p>
点検成果
<p>点検の結果は「DMデータ仕様点検記録表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、原因を調査し、修正編集を実施する。</p>

2. 3. 6. DMデータファイル

①データ記録形式の良否

検査目的
データがDMフォーマットとして適正に作製されているか。
検査方法
検査員が、作製されたデータについて、電算機にて論理検査を実施する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
点検の結果は「DMデータファイル精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、原因を追究し、データの再作成を行う。

②データ脱落の有無

検査目的
データの脱落が無いか点検する。
検査方法
検査員がDMデータを編集装置に再度読み込み、ディスプレイ上で目視点検し、レイヤの欠如、地域的な脱落が無いかを確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「DMデータファイル精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、必要な追加編集を実施し、データの再作成を行う。

③データ図式表現の良否

検査目的
図式表現が適切を点検する。
検査方法
検査員がDMデータを編集装置に再度読み込み、ディスプレイ上で目視点検し、記号表現や注記表現に不自然さが無いかを確認する。
点検数量
全域点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「DMデータファイル精度管理表」に従いまとめる。点検により発見された漏れ・誤りについては、必要な追加編集を実施し、データの再作成を行う。

④データファイル説明書の有無

検査目的
データファイル説明書が公共測量作業規程に従って作成されているか点検する。
検査方法
検査員が有無の確認を行う。
点検数量
全て点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「DM データファイル点検記録表」に従いまとめる。

⑤データファイル説明書の内容適否

検査目的
データファイル説明書が本業務の仕様に従って適正に作成されているか点検する。
検査方法
検査員が仕様書に沿っているか目視確認を行う。
点検数量
全て点検を行う。
点検成果
目視点検の結果は「DM データファイル点検記録表」に従いまとめる。

2. 3. 7. GIS面データ作成

①論理一貫性（データ形式等の適否）

検査目的
GIS面データ形式が製品仕様書どおりに適正に作製されているか点検する。

②完全性（漏れ過剰の適否）

検査目的
データに漏れ若しくは過剰が無いか点検する。

③位置正確度（位置精度の適否）

検査目的
データの位置が原典資料と一致するかを点検する。

④主題正確度（属性情報の適否）

検査目的
データの主題情報が原典資料どおりか点検する。

⑤時間正確度（時間情報の適否）

検査目的
データの時間情報が原典資料どおりか点検する。

※なお、「GIS面データ作成」工程は地理情報標準の製品仕様書に準拠して行うため、「三重県共有デジタル地図品質評価手順書」に従い検査を行うこととなる。

- 3. 標準報告様式
- 3. 1. 点検記録表
- 3. 1. 1. 予察点検記録表

予 察 点 検 記 録 表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	社内検査者
	NO.1	2500	km ²	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日		印	印

旧DMデータのデータ位置精度点検（一市町五図郭設定 該当外は表に斜線）

No	地物名称	図化読定座標 （レベル1000）			旧DMデータ座標			ΔX	ΔY	ΔS	ΔZ
		X座標	Y座標	Z座標	X座標	Y座標	Z座標				
①											
②											
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
<small>※⑥⑦は高さまたは平面位置と別地点で座標値を使用（下枠に座標位置記載）。 高さのみの座標値でも図化読定座標はX、Y、Zを必ず記入すること。 ΔX・ΔY・ΔZは水平位置座標値、ΔZは高さ座標座標値に記入する。</small>								平均2乗誤差			
								最大残差			

図郭内で顕著な地物の1座標を計測

ズレの存在する場合、原因及び対処

予察の脱落・誤記

項目	脱落	誤記
建物		
その他		

※旧DMデータのデータ位置精度点検を行なう場合、点検図郭の市町における簡単な位置及び図郭番号を記入する。

- 3. 1. 2. DM データファイル説明書点検表

デジタルマッピングデータファイル説明書 点検記録表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関	主任技術者	社内検査者
	-	2500	km ²	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日		印	印

説明書内容	誤記	脱落	対 処 記 録
作業地域表			
データ管理表			
データ更新記録表			
ユーザー領域説明書			
データ項目別オプションリスト			

3. 1. 3. DMデータ仕様点検記録表

DMデータ仕様点検記録表		検査旧市町名称・作成会社名	新規図化・修正図化の区別		最終判断(ΔV内会議・日付も記入)	
項目	仕 様	検査図面番号	適不	原因・理由	検査者名(社名)	
1 全体						
1 図解寸法	1500×2000					
2 特異な図解寸法	1500×2000					
3 全図面(ファイル)数	—					
4 紙地データ	別図面で作成					
5 索引図	必要					
6 図例	不要					
7 凡例	不要					
8 インデックスファイルの有無	全体で1つ作成 (index.dmi)					
9 データ入力仕様書等の有無	作成					
10 DMデータファイル説明書の有無	作成					
11 重複しコードの次元	2次元					
2 インデックス部・ヘッダ部						
1 図解名称のつけ方若しくは記載例	国土基本図解名称					
2 タイトル名のつけ方若しくは記載例	三重県共有デジタル地図 とする					
3 写真番号の記載内容確認・記載例	作業規程に準拠					
4 公共測量承認番号の記載有無及び番号	全角入力でスペース無し					
5 図面成果整理コード	作業規程に準拠(1or2)					
6 図解識別コード	作業規程に準拠					
7 用地変更識別コード	作業規程に準拠(変更の場合、3とする)					
3 境界線						
1 陸線処理の有無	陸線処理しない					
2 未確定境界	境界線を境界とする					
4 道路						
1 道路台帳を参照した取得形状をしているか	道路台帳を参照した形状にしない					
2 図解接合部を陸線処理で閉じているか	閉じる					
3 図化範囲外との境(重境)を陸線処理で閉じているか	閉じる					
4 道路間の接続点・道への入口・行き止まり道路等を陸線処理で閉じているか	閉じる					
5 工事中の道路との接続点は閉じているか	真直道路を陸線処理					
6 従歩道との接続点は閉じているか	閉じる					
7 立体交差の下の道路処理	陸線処理					
5 道路施設						
1 横断歩道橋の下の道路の処理	陸線処理					
2 道路標のヒゲはデータ化されているか	標分取得 図形区分99					
3 石段標の階段部分のデータ	図形区分99 (新標は仕様どおり)(修正は既存のまま)					
4 石段標階上壁下壁のデータ	上壁:区分11 下壁:区分12 (新標は仕様どおり)(修正は既存のまま)					
5 石段と道路データの重複	重複取得					
6 鉄道						
1 陸線処理がなされているか(トンネル・跨線橋・プラットフォームの屋根注意)	陸線処理 (原則として結ぶが、分らない所は結ばない)					
2 普通鉄道の表現方法	軌道中心1本					
7 建物						
1 陸線処理がなされているか	陸線処理する (変換の上を輸送管が通る場合)					
2 家は閉図形として取得しているか、棟割線が使用してあるか	閉図形 棟割線取得無し(修正で棟割線がある場合は全て修正する)					
3 家屋附属の無壁倉が全て閉図形になっているか	閉図形					
4 DMデータの確認	E1取得(面)を基本とする。図形にかかるとはE2取得(線)					
5 図解接合部を陸線処理で閉じているか	閉じない(ノードマッチングは必要)					
6 図化範囲外との境(重境)を陸線処理で閉じているか	閉じる					
7 従う無壁倉の存在	有り					
8 階層表示の有無	無し					
8 建物付属物						
1 庫門のとり方は正しいか	作業規程に準拠					
2 プールの基礎分標コード	河川(5181)で取得					
3 プールの表示	「プール」分標コード8181の説明注記(「プールは学校のみ表示する」 記号の「W」は注記の「プール」へ変更する)					
9 小物体						
1 図解最小のシンボル角度	拡張DMの基準に準ずる					
2 真形開口の表現分標コード	分標コード219の真形の開口で取得					
3 真形開口のとり方	一筆書き					
4 河川・鉄道・道路の開口の種類分けの有無	種類を分ける(道路:2219 鉄道:2419 河川:4219)					
5 真形の開口の場合、6号線1本表示が存在するか	6号線1本表示					
6 基礎の部データの有無	標分取得 図形区分99					
7 送電線の断断面象物の有無	断断面処理しない(連続データでよい)					
8 空中輸送管の表現の確認	「輸送管」新標は仕様どおり(修正は既存のまま)					
10 水網						
1 陸線処理の有無	陸線処理					
2 橋の下の陸線処理	全ての橋の下を陸線処理					
3 河口の中の陸線処理	陸線処理					
4 2条河川の末端が河口の場合、陸線で閉じているか	陸線処理 (閉じる)					
5 水記号(W)の図形種類	「W」分標コード8181の説明注記					
11 水の構造物						
1 散石創縁の有無及びとり方	閉図形 (面で取得)					
2 水門真形のとり方	柱と欄を別々					
3 水門最小の0度の形状	拡張DMの基準に準ずる					
4 護岸形の取り方	上壁:区分11 下壁:区分12					
5 護岸小の0度の形状	拡張DMの基準に準ずる					
6 護岸形の取り方	上壁:区分11 下壁:区分12					
7 護岸小の0度の形状	拡張DMの基準に準ずる					
8 護岸水制の取得位置、取得方法	外周を面で取得、内部の門を標分取得(外周部が円表示)					
12 構造物						
1 人工斜面下壁のデータ	閉じる (必ずしも閉じてくなくても良い)					
2 人工斜面下壁のデータ有の場合、図形での閉合	閉合しない					
3 人工斜面ケバデータの有無	標分取得 図形区分99					
4 縦断し地盤上壁の図形区分	図形区分0(直線壁は区分0、斜断有りの縦断(上壁)は区分11の分け必要)					
5 縦断し地盤下壁データの有無	無し					
6 真形地盤上壁の図形区分	図形区分11					
7 真形地盤下壁の図形区分	図形区分12					
8 縦断内部点の有無	標分取得 図形区分99 (円形柱を標分取得)					
9 真形地盤は上壁下壁図形で必ず閉じているか	閉じる					

10	真形補遺は図形接合部で必ず閉じられているか	閉じない						
11	真形補遺は図化範囲外で必ず閉じられているか	閉じない						
12	かさど道路の重複部で道路が陰線処理されているか	陰線処理						
13	けいよ道路の重複部で道路が陰線処理されているか	重複取得						
14	人工斜面上端と道路の重複部で道路が陰線処理されているか	重複取得						
15	設置上端と道路の重複部で道路が陰線処理されているか	重複取得						
16	設置下端と道路の重複部で道路が陰線処理されているか	重複取得						
17	道路沿いの設置の転移はなされているか	転移しない						
18	設置と河川・用水路の重複時、水部データが入っているか	重複取得						
13. 橋								
1	枕き地(S)の記号の図形種類	記号で取得						
14. 等高線								
1	凹地矢印記号の角度、図形種類等	拡張DMの基準に準ずる						
2	等高線の陰線処理の有無	陰線処理						
3	等高線高さデータの持たせ方	属性(2次元)						
4	等高線の標高注記のデータ有無	分類コード8173						
15. 管形地								
1	土がけのケバ足データの有無	線分取得 図形区分99						
2	土がけの記号(土)のデータ種類	“(土)” 分類コード8181の説明注記 手隔 1/4						
3	岩がけのケバ足データの有無	線分取得 図形区分99						
4	岩がけの記号(土)のデータ種類	“(岩)” 分類コード8181の説明注記 手隔 1/4						
5	版岩傾斜の無い	記号で取得						
16. 基準点								
1	基準点の標高注記の表現分類コード	分類コード8173						
2	標石を有しない標高注記の表現分類コード	分類コード8173						
3	図化検測定による標高注記の表現分類コード	分類コード8173						
4	各基準点高さデータの持たせ方	属性(2次元)						
17. その他								
1	始向平列・曲線平列時の注記データの持たせ方	1建物1注記						
2	記号と他の地物の交わり部の処理	出力時に陰線処理						
3	注記と他の地物の交わり部の処理	出力時に陰線処理						
4	グループ化データの種類	無し						
5	道路線の公称精度	地図情報レベル1000						
6	運賃の公称精度	地図情報レベル2500						
7	DMデータの小数点以下桁	2桁						
8	レコードタイプB点の座標値の持たせ方	変換レコード						
9	その他DMデータ読み込みソフトでの読み込みにおける図式不具合	—						
18. その他 特記事項								
1. 全体								
	・索引図は作成必要である。							
	・インデックスファイルの拡張子は .dmi とする。							
	・DMデータファイルは各市町(新自治体)単位で作成する。(1面は満図とする)							
	・座標レコードの次元は2次元とする。提案書に道路は3次元とあり(図化データは3次元で対応)							
2. インデックス部・ヘッダ部								
	・写真番号の記載は規程どおり(既存を使う UOD、DMOの分けは不要)							
	・DMデータは1/2,500のみで1/1,000は作成しない。							
	・座標変換をする場合は全点で変換する。							
	・測地成果識別、図郭識別、測地変換コードは新規で作成する。							
3. 境界線								
	・境界未定について確定できない行政界は陰線処理する。							
	境界未定箇所を結ぶ限りどころのデータとしてGDMデータを使う。							
	・海岸線の周りも入れる。島は周囲を括る。							
	・合併後の旧自治体の境界は大字界として入れる。							
	各市町に大字界が入っている場合は削除する。							
4. 道路								
	・構造化を意識して閉じる。							
	・道路についての経年変化は撮影時点とする。(小規模な家屋は入れる。)							
	客先校正時に資料よりと言われた場合、1/1,000精度が担保できるなら修正する。							
6. 鉄道								
	・【構造化仕様編】Ver 2.2の2の2.3.5駅寄りゴンデータは参考程度とする。							
7. 建物								
	・県境は閉じる。							
	・図郭接合は閉じない。							
	・市町界は閉じない。							
	・中庭は表示する。							
	・家屋内の底記号は新規では針葉広葉樹記号で取る。修正の場合はそのままでも良い。							
9. 小物体								
	・高塔(真形)の等高線は陰線処理する。 記号表示はそのまま。							
	・墓碑の土台は被覆で表現する。							
10. 水部								
	・道路を横切るものはつながりなくで坑口で閉じる。(間断)							
	・道路と平行なものはつなく。(陰線処理)							
11. 水の構造物								
	・透過水制(テトラ含む)は外周を陰線の面取得(図形区分0)							
	円表示部は円形を線分(E2)で実線取得(図形区分100)							
14. 等高線								
	・凹地の矢印は気づいたら入れる。							
	・既存データがマップデジの場合の陰線処理 等高線が切れている。(保留)							
17.								
	・注記は原則として一段書きとし、收拾がつかない場合のみ二段書きとする。							
	・行政名は1面に一面所入れる。							

※陰線処理とは共有デジタル地図の仕様書では間断処理をいう(データは存在)

※間断とは共有デジタル地図の仕様書では間断をいう(データは存在しない)